

PIARC2008-2011 キックオフミーティング (D 部門：道路構造物の質)  
会議報告

**D 部門全体会議の概要**

PIARC 前期研究計画(2004-2007)の成果報告等

- ・ 113 政府会員 (142 カ国をカバー)

ヨーロッパ	33	アメリカ	22
アフリカ	30	アジア	28
- ・ 55 のテクニカルレポート (Web 上で PDF で入手可)
- ・ 各テクニカルコミッティ (TC) のレポートを Virtual Library として Web で公開
- ・ 用語の統一作業 (フランス語、英語、スペイン語、ポルトガル語・・・)
- ・ セミナーの開催 (24 回、延べ 50 カ国 1000 人以上が参加)
- ・ PIARC2007Paris(3500 人、121 カ国、57 機関が参加)
- ・ Communication として、News Letter、Routes/Roads の発刊
- ・ 収支報告 収入 790000 ユーロ (60%は政府機関からの援助)  
支出 792000 ユーロ (40%は会議運営費、40%はスタッフの人件費)

PIARC 次期研究計画(2008-2011)について

- ・ 以下の 4 つの大テーマについて 17 のテクニカルコミッティを設定
  - A 道路交通システムの持続性(Sustainability of the Road Transport System)
  - B 提供するサービスの改善(Improving Provision of Service)
  - C 道路システムの安全性(Safety of the Road System)
  - D 道路構造物の質(Quality of Road Infrastructure)
- ・ 関連して以下の国際会議を予定
  - 2010 年 2 月 PIARC 冬季会議 in ケベック
  - 2011 年 PIARC 会議 in メキシコ
- ・ テーマ D のキーワードは Sustainability (持続性) であり、テクニカルコミッティ間の連携に期待している (Anne Marie 氏のコメント)
- ・ 本研究計画における進め方は以下のとおり
  - 各テクニカルコミッティは以下で構成
    - Chairman(President)、Secretary (英、仏、西)、Member および Corresponding Member (会議には出席せず、Member をサポート)
    - Website の Public Site のほか、Member Site(password 必要)でも議論を行えるように仕掛け
    - Discussion Forum (掲示板?)
    - Upload & Download による情報交換

## D.2.b サブコミッティ会議の概要

D 部門は以下の 4 つの Committee に分割されている。

- D.1 Management of Road Infrastructure Assets  
(道路構造物のアセットマネジメント)
- D.2 Road Pavements (道路舗装)
- D.3 Road Bridges (道路橋)
- D.4 Geotechnics and Unpaved Roads (土工と未舗装道路)

このうち D.2 はさらに 3 つのサブコミッティに分割されており、日本は D.2.b に参画。

D.2.a Road Surface Characteristics (路面特性)

D.2.b Flexible and Semi-Rigid Pavement (たわみ性および半たわみ性舗装)

D.2.c Concrete Pavement (コンクリート舗装)

Semi-rigid は日本では半たわみ性舗装と認識されているが、国際的にも定義は曖昧のようで、今回の会議ではアスファルト混合物層 + セメント系の安定処理路盤やブロック舗装を指すこととなった。ちなみに我が国で言うところのコンポジット舗装は D.2.c が担当。

今回の会議の目標は以下のとおり。

- ・メンバーの連絡先等の確認
- ・以下の 5 テーマについて、検討体制と成果 (報告書 or セミナー開催) の設定
  - Reducing construction time and cost (建設コストの縮減と時間短縮)
  - Improved maintenance methods (革新的維持修繕技術)
  - Road noise mitigation (道路騒音の低減)
  - Monitoring of innovations (新技術の評価)
  - Adaptation to climate change (気候変化への対応)
- ・第 1 回セミナーの開催時期の決定
- ・Terminology Committee (用語委員会) への対応メンバーの選定
- ・次回会合のセットとそれまでの作業分担の決定
  - 5 月にコペンハーゲンで開催される E&E (ヨーロッパアスファルト舗装会議) の前後もしくは 10 月にギリシャで開催される Rilem 会議の前後を予定

テーマ (建設コストの縮減と時間短縮) について

- ・手段として考えられるのは以下のとおり
  - 中温化技術、2 層同時施工、Echelon paving (2 台のフィニッシャが併走)
  - 原位置(In-situ)リサイクル、セミコンポジット舗装 (スラリーセメント路盤?)
  - デザインビルド(DB)、LCC

- ・上記のうち、デザインビルドや LCC は設計の話。ここでは舗装構造そのものの検討までは対象とするべきでない。

- ・テーマ のゴールは Technical Report ( 報告書 )

#### テーマ ( 革新的維持修繕技術 )

- ・D.2.c( Concrete pavements、コンクリート舗装 )と共同で進めるという手もある。
- ・テーマ とも共同作業は可能。
- ・D.1(Management of Road Infrastructure、道路構造物のマネジメント)との共同作業もあり得る。
- ・連携を視野に、今後のスケジュールや目標物 ( 報告書など ) はペンディング

#### テーマ ( 道路騒音の低減 )

- ・排水性舗装のリサイクルや多孔質弾性舗装など日本が貢献できる分野として参加表明。
- ・排水性舗装は低騒音性能は有するが、機能の持続性が問題。
- ・スウェーデンや日本、オランダでゴムチップ舗装の取り組み。
- ・遮音壁などはこのサブコミッティの対象外とするが、D.2.a(Road surface characteristics、路面特性)とも関連するので、共同でレポートを作成することも考えられる。

#### テーマ ( 新技術の評価 )

- ・innovation とは何を指すのか。
- ・リサイクル技術に絞ってはどうか。
- ・他のテーマ ( D.2.1 など ) との統合を検討する。

#### テーマ ( 気候変化への対応 )

- ・気候の変化への対応と気候変動の抑制の 2 つがある。
- ・前者として、
  - 温暖化に対応したわだち掘れ対策
  - 耐水性を考慮した moisture resistance
  - 都市型集中豪雨への対応としての透水性舗装
- ・後者として、
  - 温室効果ガスの低減技術
  - 保水性舗装などの路面温度低減技術
  - 他国からも「日本で実施しているはず」との指摘もあり、このテーマにも参加する予定
- ・本テーマのアウトプットは報告書を予定。

## もろもろ写真集

Porte Maillot のロータリー内の公園の歩道  
土系（と言うより土）舗装  
人為的に掘ろうと思えばいくらでも掘れそう。  
セメントなどの結合材は使用していない様子。



La Defense 地区の歩道路面の拡大写真  
四角いブロックが敷き詰められており、よく見ると  
ブロックの下は空洞。排水のためか？



D 部門全体会議の様子  
左端が Corte 委員長、その隣が ISAP2006 の  
Co-Chair でもあったカナダ・ケベックの Anne  
Marie 氏。



同時通訳用に配布されたヘッドホン  
発言者がフランス語で話し始めると、ほとんど時  
間差無く英語での同時通訳を開始。逆もしかり。  
ただし、スペイン語の通訳はいなかった  
各 TC で使用したものはもっと小型のイヤホンタ  
イプ。



会場となった Paris EXPO Coeur Defense ( 右 )

下はサブコミッティの会場

下右の写真の中央にあるボックスは通訳席。本会議同様、フランス人等がフランス語で話し始めると即座に英語に同時通訳されていた。ここでもスペイン語はなし。

会場では英語が多数派で、フランス語はフランス、カナダ・ケベック州、アフリカ・マリの代表者程度であった。

